



埼玉県マスコット
「コバトン」

令和8年度

水稻の生育概況 vol.4



(令和8年9月7日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要 約

- ◎気象概況：8月の平均気温は平年比 $+0.1^{\circ}\text{C}$ 、降水量は平年比70%、日照時間は平年比88%であった。
- ◎生育状況：早植栽培では平年より収穫期が遅くなっている。普通期栽培も天候の影響により出穂期が遅れているため、収穫期が平年より遅くなると見込まれる。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・水 管 理：出穂30日後までは根の活力維持と地耐力の向上を図るため間断かん水を行う。早期落水は品質・収量を低下させるため絶対に行わない。
 - ・適 期 収 穫：品種ごとの登熟積算気温や籾水分等を参考に適期収穫を心掛ける。
 - ・雑 草 防 除：収穫物に混入すると除去が困難な雑草は刈取り前に除去する。

1 気象の概況

8月の平均気温は、第2、5半旬が平年を上回ったものの、第3、6半旬は下回って経過し、月平均では $+0.1^{\circ}\text{C}$ となった。降水量は8月9、12、13日にそれぞれ日合計22.5、31.5、38.0mmのまとまった降雨があったものの、第2、3半旬を除き平年を下回り、月全体では平年比70%となった。日照時間は、第2、4半旬が平年を上回って経過したほかは平年を下回って経過し、月合計では平年比88%となった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

出穂期が平年より4日早かったものの、8月第2、3半旬の降雨により倒伏が発生したことから登熟は抑制気味となり、成熟期は9月2日とおおむね平年並となった。

出穂20日後調査時点では、稈長は平年比98%、穂長は平年比97%、穂数は平年比110%、風乾重は平年比101%となった。

イ 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

主稈総葉数は平年並となり、8月の第2半旬の平均気温は平年を上回って経過したものの、出穂期は平年並となった。

出穂期調査時点の草丈は8月第1、3半旬の寡照傾向により、平年比105%と徒長傾向となった。茎数は依然平年を上回って推移し、平年比104%、風乾重は平年比101%となった。出穂20日後調査では稈長は平年比105%、穂長は平年比98%となった。また、有効茎歩合が高く、穂数は平年比116%、風乾重は平年比116%となった。

ウ 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

主稈総葉数は平年差0.4と平年を上回ったことに加えて、8月第3半旬の平均気温は平年より低く経過したため、出穂期は平年より4日遅い8月20日となった。

出穂期調査時点の草丈は8月第1、3半旬の寡照傾向により平年比109%と徒長傾向となった。茎数は依然平年を上回って推移し、平年比110%となった。本年は7月の高温による早期に茎数が確保されたことや、8月の寡照傾向により徒長したことで生育量が大きくなり、出穂期調査時点の風乾重は平年比140%となった

（2）県内全般

早期栽培では収穫期を迎えている。台風15号通過後の8月12～13日の大雨により一部でなぎ倒伏が発生したが、収量、品質共に良好である。しかし、8月下旬～9月上旬の降雨により収穫作業の進捗に影響が出ている。

早植栽培は、出穂期が平年に比べ1日程度遅くなっている。また、中干しから穂ばらみ期にかけて梅雨らしい梅雨の影響で生育が停滞し、施肥窒素成分が後半まで残存したほ場や、中干しが不完全だったほ場では草丈が伸び、相対的に多肥栽培の様相を呈している。

普通期栽培は出穂期が平年に比べ1～3日程度遅くなっている。

いもち病の常発地域では、葉いもちの発生がみられる。中山間地域の一部では穂いもちや枝梗いもちが発生している。

イネカメムシ等の斑点米カメムシ類は、各地で防除が実施され、散見される程度となっている。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が9月3日に発表した関東甲信地方の向こう1か月の天候の見通しでは、平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間はほぼ平年並の見込みである。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いとされている。

（2）生育予測

ア 早期、早植栽培

天候不順の影響を受け、登熟に時間がかかり成熟期が遅くなると予想される。また、降雨や倒伏の影響で収穫作業の遅延による品質低下が懸念される。早植栽培では中干しが不十分で田面が軟弱なほ場や過繁茂のほ場では今後、倒伏の拡大が懸念される。

イ 普通期栽培

出穂期が遅れていることに加え、登熟期の天候不順により、登熟に時間がかかることから、成熟期が遅れると予想される。日照不足により登熟不良となった場合は、粒張不足によるくず米の増加が懸念される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 早期、早植栽培

ア 収穫・乾燥・調製

刈遅れによる着色粒や胴割粒の増加で外観品質が低下するため、適期収穫を徹底する。品種ごとの登熟積算気温等を目安に、籾水分が 25%以下に低下したら、速やかに収穫を始める。高温に推移した場合は適期の中で、早めの収穫を心掛ける。

倒伏が発生した場合は、成熟期に達しているほ場では速やかに刈取りを行い、登熟ムラのあるほ場ではできるかぎり刈分けを行い、品質低下を防ぐ。

収穫時の籾水分が高くばらつきが大きい場合には、1 晩から 1 日程度通風乾燥を行い、籾水分を均一にしてから火力乾燥を行う。

斑点米カメムシ類の吸汁等による着色粒や雑草種子などの夾雑物が混入する場合は、色彩選別機の利用を検討し、検査等級の向上を目指す。

イ 稲株早期すき込み

気温が高い時期にすき込むことで、有機物の分解が促進される。また、台風等の大雨による稲わらの流出を抑制できる。

収穫後の稲株から発生する穂（ひこばえ）はイネカメムシ等の栄養価の高いエサとなるため、収穫後は速やかにほ場を耕うんし、来年の害虫の発生を抑制する。

ウ 雑草防除

クサネム等種子が大きく、収穫物に混入すると除去が困難な雑草は刈取り前に除去する。

ナガエツルノゲイトウが発生しているほ場では、収穫で切断されたり、わらに隠れた茎葉を再度繁茂させ、10 月下旬ころグリホサート剤を散布して地下茎への養分蓄積を抑制する。また、発生ほ場から未発生ほ場へ移動する際は、農機具の足回りを洗浄して茎葉の切片をほ場へ持ち込まない。

(2) 普通期栽培

ア 水管理

早期落水は外観品質の低下や粒張不足など著しい悪影響を与えるので避ける。根の活力維持のため出穂後 30 日までは間断かん水を徹底する。

イ 収穫・乾燥・調製

刈遅れによる着色粒や胴割粒の増加で外観品質が低下するため、適期収穫を徹底する。品種ごとの登熟積算気温等を目安に、籾水分が 25%以下に低下したら、速やかに収穫を始める。

品種や作期によって出穂のばらつきが大きいほ場が見られる。出穂の遅い穂の成熟を待っていると先に収穫した強勢の籾が刈遅れとなるため、帯緑籾が多く見えても早めの収穫を心掛ける。高温に推移した場合は適期の中で、早めの収穫を心掛ける。

倒伏が発生した場合は、成熟期に達しているほ場では速やかに刈取りを行い、登熟ムラのあるほ場ではできるかぎり刈分けを行い、品質低下を防ぐ。

収穫時の籾水分が高くばらつきが大きい場合には、一晩から 1 日程度通風乾燥を行い、籾水分を均一にしてから火力乾燥を行う。

斑点米カメムシ類の吸汁等による着色粒や雑草種子などの夾雑物が混入する場合は、色彩選別機の利用を検討し、検査等級の向上を目指す。

ウ 雑草防除

クサネム等種子が大きく、収穫物に混入すると除去が困難な雑草は刈取り前に除去する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	27.6	27.7	33.1	33.1	23.0	23.8	0.5	20.3	27.8	30.2
2	29.3	27.8	35.9	33.1	24.6	23.8	22.5	21.6	46.0	29.8
3	25.1	27.5	30.0	32.7	22.3	23.6	77.0	27.2	9.8	27.6
4	27.5	27.0	32.7	32.1	23.4	23.3	0.0	32.8	31.2	26.2
5	28.5	26.6	(33.1)	31.6	(24.6)	22.9	4.0	36.8	(20.9)	25.4
6	25.4	26.2	29.5	31.1	21.9	22.5	25.0	42.2	12.9	29.4
平均	27.2	27.1	(32.3)	32.3	(23.2)	23.3	合計 129.0	183.3	(148.6)	169.3

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。

括弧内は欠測値があるが許容範囲内のため正常値を同様に扱える「準正常値」。平年値は 1991～2020 年の気象台値。

2 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

（1）出穂 20 日後調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/株)			風乾重(g/10株)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
87.2	88.9	98	19.7	20.2	97	23.1	21.0	110	2188.0	2167.0	101

注) 平年値は平成11年～令和7年の平均(平成22年を除く)。 平年比は%

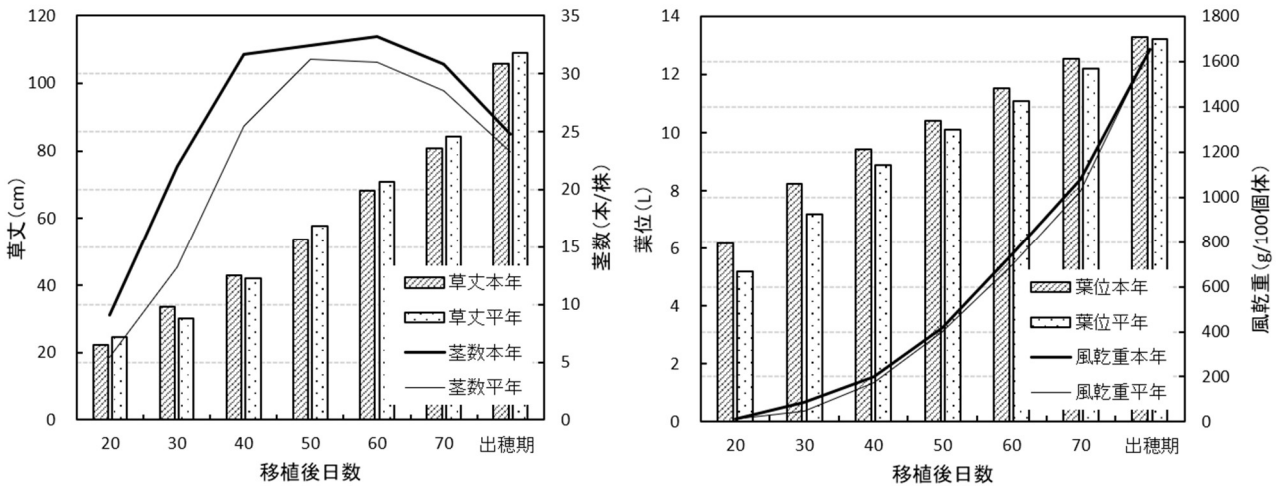
うち、稈長の平年値は平成17年を除く。

（2）出穂・成熟

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7/19	7/20	-1	7/21	7/25	-4	7/23	7/28	-5	9/2	9/3	-1

注) 平年値は平成11年～令和7年の平均(平成22年を除く)。

（3）生育経過



3 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/10株)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
80	104.0	101.6	102	21.3	20.2	105	14.2	14.2	0.0	1747.8	1774.7	98
出穂期	115.1	109.9	105	20.2	19.5	104	14.2	14.2	0.0	1991.6	1968.5	101

注) 平年値は平成12年～令和7年の平均。 平年比は%

（2）出穂 20 日後調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/株)			風乾重(g/10株)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
82.1	78.3	105	20.3	20.8	98	20.9	18.0	116	2722.0	2338.8	116

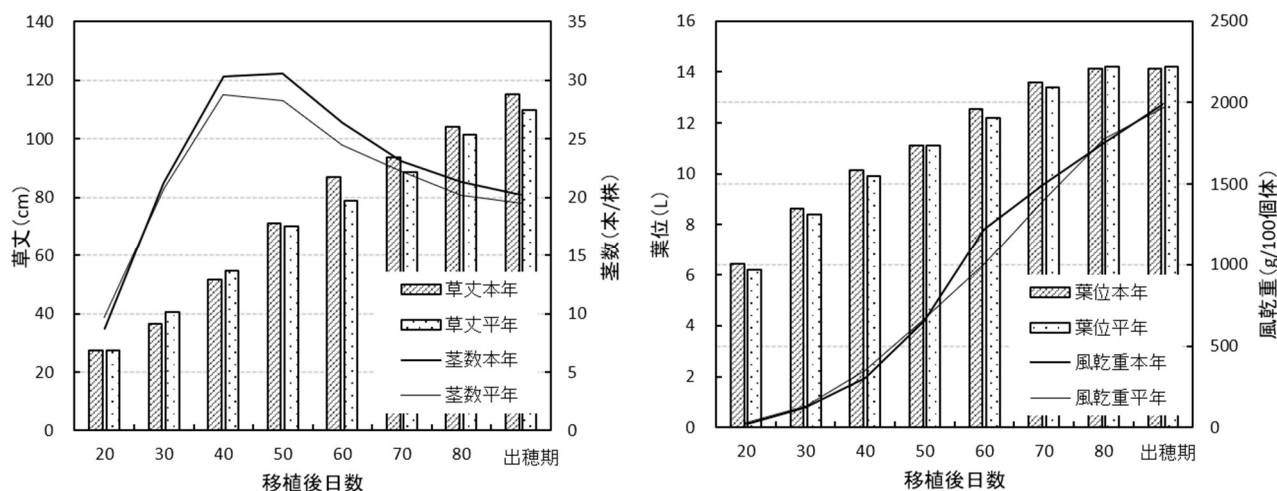
注) 平年値は平成12年～令和7年の平均。 平年比は%

（3）出穂・成熟

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/10	8/9	1	8/12	8/12	0	8/14	8/14	0	—	9/27	—

注) 平年値は平成12年～令和7年の平均。 平年比は%

（4）生育経過



4 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/10株)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
40	73.7	73.0	101	26.8	25.6	105	12.0	11.8	0.2	681.8	723.9	94
50	88.6	86.0	103	25.9	23.4	111	13.2	12.9	0.3	1136.9	1091.8	104
出穂期	98.4	89.9	109	24.8	22.5	110	13.4	12.9	0.4	1710.2	1222.5	140

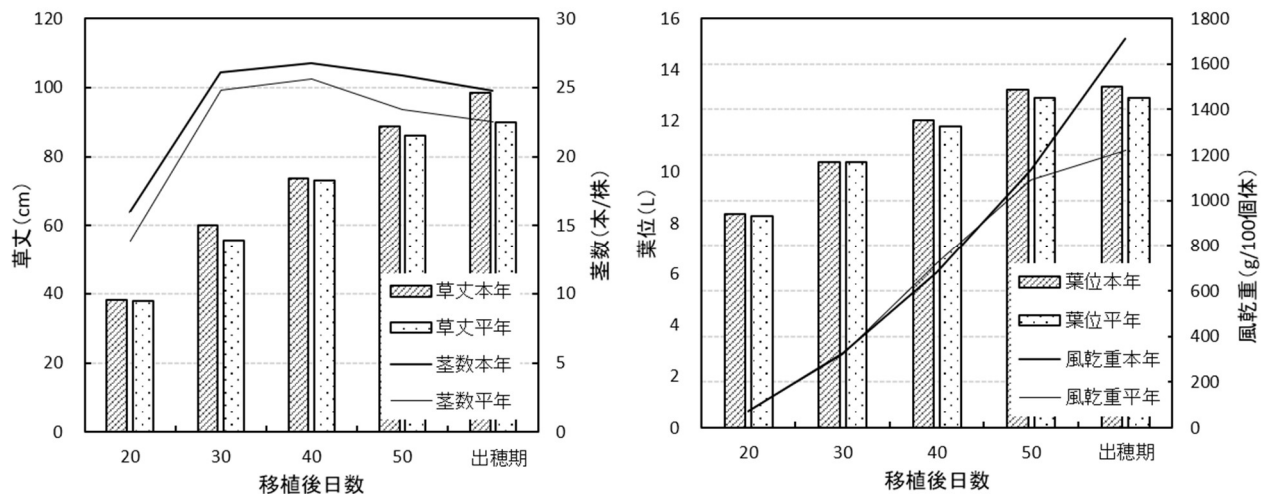
注) 平年値は平成27年～令和7年の平均。 平年比は%

(2) 出穂・成熟

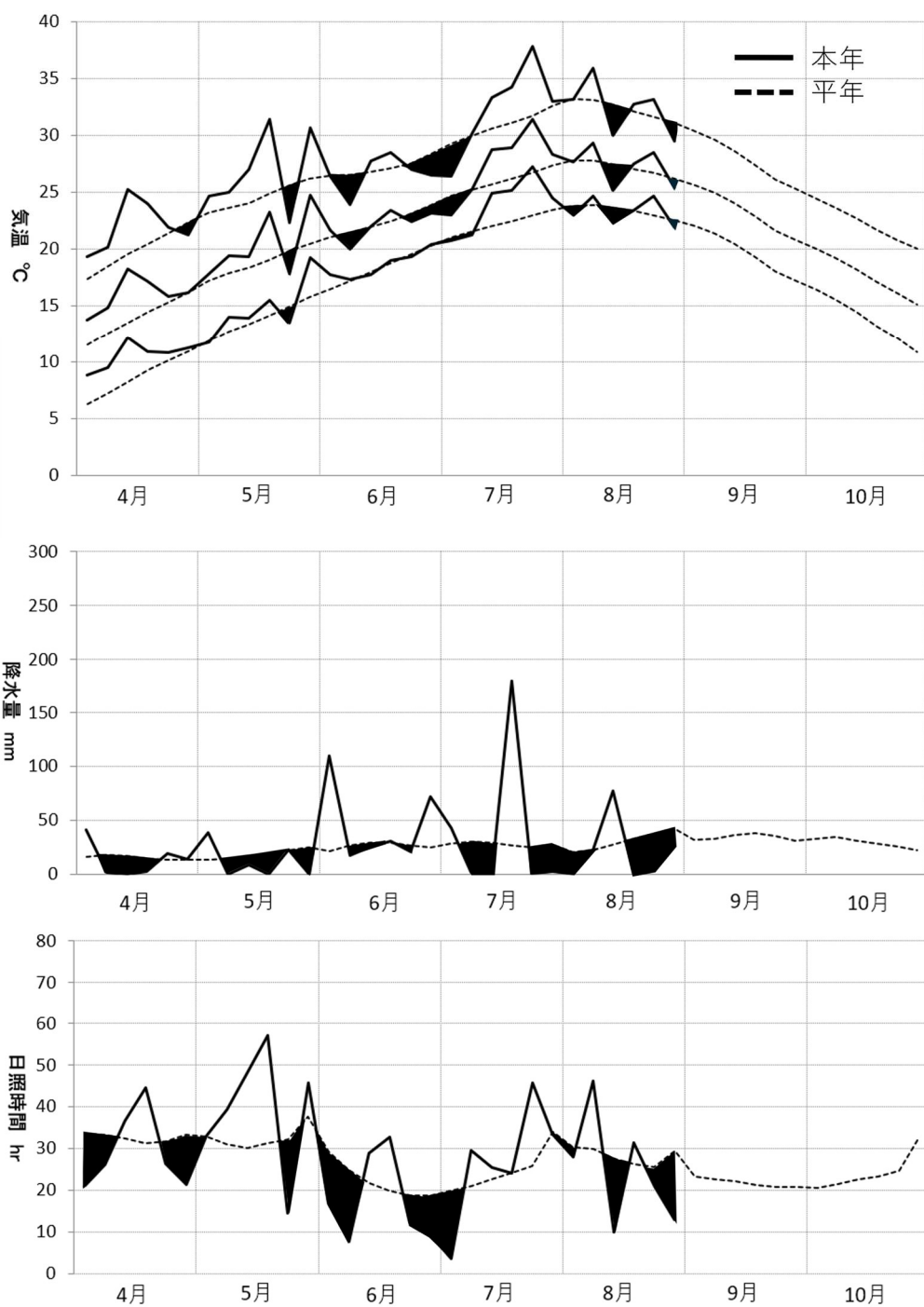
出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/18	8/13	5	8/20	8/16	4	8/23	8/19	4	-	9/29	-

注) 平年値は平成27年～令和7年の平均。

(3) 生育経過



注) 平成30年、令和5年は出穂期がかなり早まったため、50日後調査データを省略。



令和8年夏作期間気象図

(熊谷気象台日別測定値から作成)